

米國議會の花 オーン夫人

オーレン夫人

米國議會の花
オーレン夫人 (上)
男女同権を如實に
現はす北米の婦人
北米はチプラスカ州の或小學校
の教室、一人の女生徒の机の上
に一冊の雑誌が擴げられてあつ
た、其處には角の生へた尻尾の
長い恐ろしい怪物の繪が描かれ
てゐる。他の男の子や女の子は
腰を下して、ひろげられた雑誌
の繪を見た——今に其の子が泣
き出すだらう、左もなくば何か
變つた表情なり動作なりをする
だらうと、思ひの外、其の女の
兒はじつと其の怪物の繪に見入
つてゐたが、何氣ない體で静か
にページを開いて次の繪を順々
に見て行つた
そして最後に静かに雑誌を閉ぢ
て傍らに置いた、この女の兒は
ウイリアム・ゼニング・ブライ
アンの愛娘ルースで、其時彼女
は十一歳であつた雑誌の繪に描
いてあつた怪物は父のブライア
ンを表したもので、反對派の
喧傳であった。
一八八六年、年僅に三十八歳の
ブライアンは民主黨の大統領候
補者に推され、銀貨本位と自由
貿易とを提げて、其の頃共和黨
の領袖として聲望一世を壓した
マッキンレーに向ふに廻して激
烈な競争を試みた、けれども、時
に利あらず、彼の雄辯も其の甲
斐なく、若冠のブライアンは見
事一敗地に塗れたのである。ル
イスの小學校に於ける出来事も
其の當時のことであつた、この
思慮深いルースは成長してから
大學を卒業し後、或人に結婚し
て居る、數年前夫君に死別された
の時英國の陸軍將校オーレン氏と
結婚して四人の子供の母となつ
たが不縁で離婚し更に二十四歳
後、フロリダ州から下院議員の

緊 告
私儀今般サンツス市カ一
ザ東山のソロカバナ線代
理人に指定され珈琲委託
販賣並びに金融に應ずべ
く候間多少に不拘御用命
の程懇願仕候

ロカバナ線
アルヴァレスマッシャード驛
木村孝太郎 郵函一番

Departamento Agronomico Theodor Wille & Cia.

Caixa Postal, 94 São Paulo Rua Libero Badaró, 52

地質——芋の栽培者に最も緊要の點は第一に其の適地を撰選するに最善の注意を拂ふ事である、芋作に能く謂ふ事であるが、思ひの外收量が少ないと言ふ場合を見れば、大部分は地質の適當でないに原因する事が多い、元來芋は凡ての地質に生育するが然し適地に植付けなければ儲かる發育でない、芋の適地には云へば硅酸粘土壤土である然も能く其の土質は滲透性に富み且つ土中に空氣の流通のよいのが必要とする、石塊の多い所、酸性土や非常に濕潤の地には芋の栽培の栽培は適しない收量が少ないので、芋の栽培で充分の收穫を望むなら唯に硅酸粘土壤土を撰ぶ以外に此の適地を充分深く耕耘するのも少しくとも三十分の深さに深耕する能く土塊を粉碎する事を忘れてはならぬ、此は芋の塊根の發育には缺く可ならざる事である。

前述の如く適地と植付地の整理が充分でも芋の根の發育に必要な養分が地中に含有して居ないと思ふ丈の收量を望まれない、乃ち窒素、磷酸、石灰、草達の成分を適當に與える必要がある、芋の栽培で充分手入をして拘らず收量の外少い場合がある、此は地中に芋の塊根を構成するからである、夫で此の不足成分を補ふのは缺く可からざる事で、乃ち化學肥料の必要が茲に起るのである。

所次取符切定指社會船商阪大

| |
|-------------------|
| 聖市旅館同業組合 |
| 末廣 |
| 中山忠太郎 |
| （電話）二一五六三八 |
| （コンセレヨロフ・タド街二二番地） |
| 大和 |
| 坊迫健藏 |
| （コンセレヨロフ・タド街二二番地） |
| 常盤 |
| 小川源右衛門 |
| （コンセレヨロフ・タド街十六番地） |
| （電話）一一四四七六 |
| 旭 |
| 石原桂造 |
| （コンセレヨロフ・タド街四四番地） |
| （電話）二一三六九〇 |
| 上地 |
| 秋田糸三郎 |
| （コンセレヨロフ・タド街二二番地） |
| （電話）二一一七八二 |
| 東京館 |
| 仲村渠三郎 |
| （アーヴィング街二九一） |
| （電話）二一九三郵局三三三 |

和菓子

送料共二五ミル

| | | | |
|---------------------|----------|-----|------|
| 海外興業株式會社編 | ブラジル語會話 | 送料共 | 十ミル |
| 聖州新報社編 | ブラジル語講習錄 | 送料共 | 二十ミル |
| 日伯兩字入最新版 | 地圖 | 送料共 | 五ミル |
| 聖州 | 送料共 | 五ミル | |
| ダコンバロール、シエケでお願ひ申します | | | |

瀬木商店

Caixa Postal, 1771 Teleh. 2-31

**Kalkmann Irmãos
& Peters Ltda.**



Uspulum

**大武和三郎氏著
和葡辭典**

送料共一五ミル

海外興業株式會社編
ブラジル語會話 送料共 十ミル
ブラジル時報社出版
聖州新報社編
伯國語會話書 送料共 二十ミル
日伯兩字入最新版
聖州地圖 送料共 五ミル
普通手紙の中へ現金封入御送金の方がありますが
地方の郵便局員の手に抜取られて着かぬ事が多く
取調べざへ出來ぬ有様ですから御送金の場合は是非
コンバロール、バーレボスター、エンコメン
ダコンバロール、シェケでお願ひ申します

SEGUI & CIA.
Caixa Postal 1771 Telch. 2-3836
R. Cons. Furtado, 12 S. Paulo

ソロカバナ線
棉作地帶

求欲の供子

四月號 音樂俱人婦

一家一冊ゼヒ必要な大附錄

調理法 四百種 その目くのお惣菜

四六判二百五十頁！一度と得難い實用料理寶典！

季節々々の有り合せの材料を使って、手軽に美味しい出来る家庭料理の教科書が盛つてありますから、一讀誰方にも読み理が出来、こんな簡単な本はありません。

死まで覺悟した 憧みの婦人職業案

▲▲▲ 勉強嫌ひな子供指導 緊縮時代縁談婚禮 いろ／ばな

及川道子嬢出世物語

育ちの悪いお子様のお母様

新婚時代最も注意すべき事項



世界の女を語る 會談版

目下大評判の八大小説

父なれば菊池寛
子(母の續篇)鶴見祐輔
假面の戀人貴司山治
△嘆の使都中村武四郎
△星の結婚山中峯
英子の結婚山中峯
△星の使加藤武四郎

軽快な春向セーター

セル地 ネル地で出来る春の子供
蒸タオル應用の手軽な美顔
お産の前後と授乳の育て方百

定價六拾錢送二十八錢料・發行所 東京本郷區駒込坂下町 大日本雄辯會講談

何に使はれるか?

軍縮が生む八千萬圓

剩餘財源の争奪

海軍々縮により浮余剩餘財源約八千萬圓の使途は大部分一般國民の負擔輕減と海軍力充實の爲めに優先的に振向かれる豫定であるが、早くも其の使ひ道に就て争奪戦が開始され各機關と海軍波に搖り出された

一、労働者安定救護法
二、失業保険制度確立
三、中小商工業者金融機關改善

二萬五千の

『小江戸ツ兒』

七ヶ年の時日と八億の互費を要した大東京の復興が三月に舉行されたが、あの大震災時

の混亂中に嘔々の聲を揚げた千餘人がこの四月一日に小学校へ入學したあの未曾有の慘事に際しての母の心理的變化が如何に子供達に影響しているか興味ある問題さて、これらの児童の將來は注目されいる

以上との問題に對して進言する

四、肥料代給組合改善

五、蠶糸業救濟法案

空軍の如きは常備飛行機を現在の三倍に増加し米國空軍とその

弱勢を招致するとしても制限

内に於て國防策樹立も研究し

空軍の如きは常備飛行機を現在

の三倍に増加し米國空軍とその

弱勢を招致するとしても制限

内に於て國防策樹立も研究し

空軍の如きは常備飛行機を現在

白金臺町の山田氏邸へは「減税運動に努力をいたむ」最後までやつてくれ百姓をばしにするな等々熱烈な聲援電報が全般に其鳴している

建説に於ては、日本から殺到し大に政府當局への

ゴミを利用して

養豚——五萬頭

東京市の新事業

芥の處分について、東京で種々研究中であつたが、この程く

當局でもこれが實現については

紙屑や木屑の分と、食料の分と

の二種に分ける必要があるが市

れを利用する豚二頭を飼つて見る事にならぬが、そこでこれを

五萬圓は出る、そこでこれを

一體鹿児の中には臺所の

坂から櫻田門へ至るお濠ばたの

花が見られ赤坂見付慶橋の櫻

五番町英國大使館前の櫻、三宅

花も工事の完成で、今年は見事

内外製菓製造元、卸

花あられ

松風煎餅

餅菓子類

花を咲かせた

内に於て國防策樹立も研究し

空軍の如きは常備飛行機を現在

の三倍に増加し米國空軍とその

弱勢を招致するとしても制限

村上製菓場

薬泉溫室家湯照遍

Y. A. Faque (Caxa, 3046 S. Paulo)

登録

花あられ

松風煎餅

餅菓子類

花を咲かせた

内に於て國防策樹立も研究し

空軍の如きは常備飛行機を現在

の三倍に増加し米國空軍とその

弱勢を招致するとしても制限

内に於て國防策樹立も研究し

空軍の如きは常備飛行機を現在

「それは何の仔細もない事、故越中守の舍弟、入つて家を相続したる石見守に對して、角之進が抵抗いたし候故、斬つて棄てたと申せばそれ迄、又森通の一件は、當時鮑町七丁目の町長崎の異人より外療の道と修業せし由、此者を呼んで拙者の男醫者村山蟠龍と申す者、永らく

大久保彦左衛門 第六十七回

小シヤカラ

カユミあるチキモノによ
ビシノール軟膏!!

母國へ一番

◇早く確実な
優秀の大型客船
(命令定期毎月一回)

お隣側には屋代石見守、皆熨斗

日麻上下にて控へて居る、やがて取調べにかゝつたが、第一條

彦左衛門は證據證人並べての

諸役人も思つて居たが、重兵衝

の石見は案外平氣で知らぬ

取調べ、是はさぞ困るだらうと

一點張り、やはては、

「去る亂倫をいたさぬ確固たる

證據がござる」

と、言切つた。

「その證據とは」

「さればにて候、實は私少年

の頃より佛道を好んで羅利いた

して居ります、その者が何と

して娘と不義をいたす道理が

あらう」

と、言切つた。

「その證據とは」